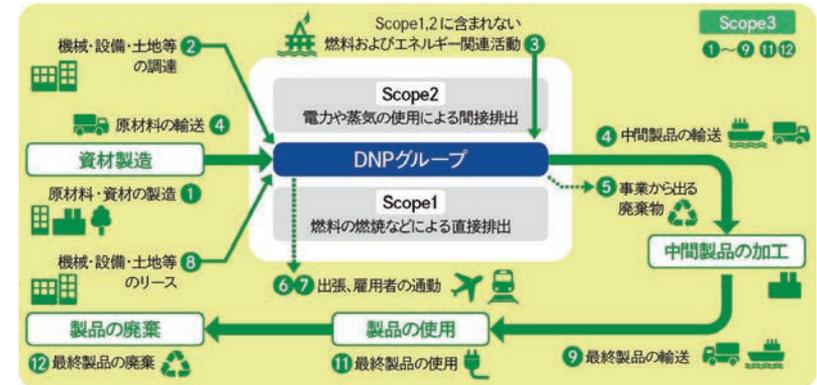


## 各社の考え方

□ 算定を行う  
背景・目的

- サプライチェーンを通じた温室効果ガスの排出量を削減することが、社会的及びビジネス上の要求になりつつある中で、Scope3の算定を行い、サプライチェーン全体での削減対策を実施することで、更なる排出量管理の向上に繋げる。この取り組みは、事業活動全般にわたっての把握が重要であるため、国内だけでなく海外を含めたDNPグループ全体として考える。
- 削減のポテンシャルが大きい段階を明確化し、より効率的な削減対策の実施を目指す。
- 主要海外サイトでの算定を実施し、グローバルに事業展開する得意先からの環境負荷状況の問い合わせなどに迅速に対応していく。

サプライチェーン全体でのGHG排出量管理イメージ

□ 算定結果の  
活用方法

- 海外を含めたDNPグループサプライチェーン全体の排出量について、一定の算定方法を確立することにより、経年的な排出量の増減を定量的に確認する。また、データ精度の課題を明確にし、精度向上を図る。
- 多岐に渡る物品の取扱いに関連して、サプライチェーンを通じた排出量の算定方法を習得し、物量データ等のデータベース化を目指す。
- 企業活動全体に対するサプライチェーンを通じた排出量集計を、順次細分化することで、製品群別、得意先別、製品別(カーボン・フットプリント)のデータ集計が可能となり、今後高まるであろう得意先の開示要求に対応する。

	各社の考え方
<p>□ 算定のメリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上記活用方法を通じて、削減ポテンシャルの明確化、算定手法の洗練化、得意先の開示要求への対応等が可能になる。</li> </ul>
<p>□ 社内の算定体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● データを全社の関連部署から集め、環境部門で算定を行なっている。</li> <li>● データの収集元は、購買部門(カテゴリー1, 4)、経理部門(カテゴリー2, 8)、環境部門(カテゴリー3, 4, 5)、労務部門(カテゴリー6, 7)、管理部門(カテゴリー9, 11, 12)である。</li> </ul>
<p>□ サプライチェーン排出量の削減に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グリーン購入の推進、環境配慮製品の開発・販売、また荷主としての輸送の効率化等を通じて削減を図っている。</li> <li>● カテゴリー1「原材料・資材の調達」段階の排出量が全体の50%以上と多いため、削減に向け取り組んでいく。</li> </ul>
<p>□ サプライチェーン排出量算定の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大日本印刷の製品は中間材が多いため、下流の販売した製品の加工・使用(カテゴリ10, 11)の算定が難しい。(2013年度の算定は、国内におけるPETボトル・プリフォームの使用時(ペットボトルに加工され、飲料として売られたものが冷却される際に使用されるエネルギー)のみ対象とした。)</li> <li>● 他の部品の加工・使用については、完成製品全体に占める重量が小さいか、加工・使用の際のエネルギー使用がないため、算定対象外としている。</li> </ul>

## 3

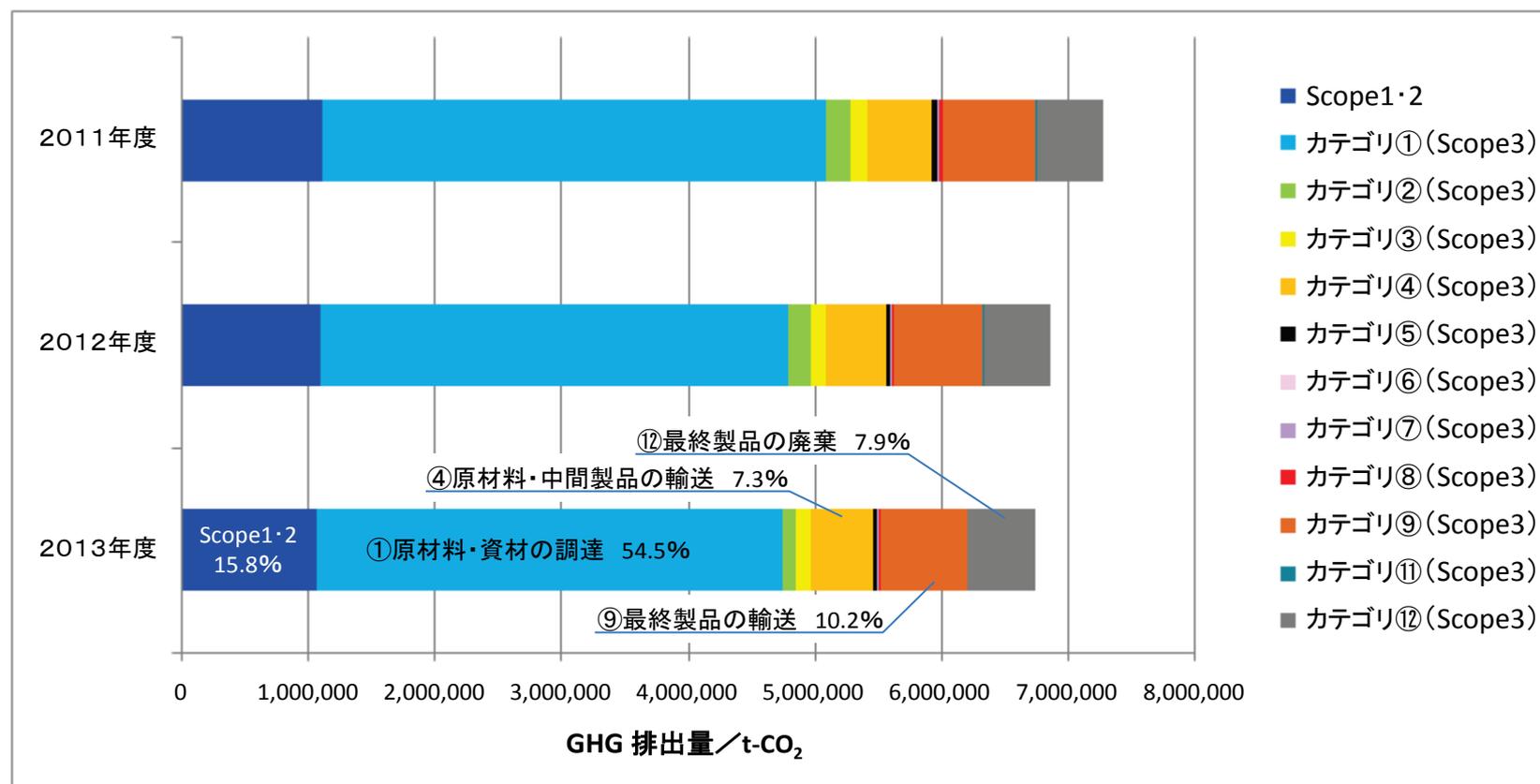
## 大日本印刷株式会社

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ①「購入した製品・サービス」	<ul style="list-style-type: none"> <li>原材料・資材購入量(重量、金額) (重量&gt;金額の優先順位で把握)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CFP基本・利用可能DB</li> <li>3EID(CFP&gt;3EIDで利用)</li> </ul>
カテゴリ②「資本財」	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地・建物や機械器具の取得金額</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3EID</li> </ul>
カテゴリ③「Scope1, 2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃料、電気、蒸気のエネルギー使用量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原単位DB*</li> <li>CFP基本DB(海外)</li> </ul>
カテゴリ④「輸送、配送(上流)」	<ul style="list-style-type: none"> <li>荷主輸送分のトンキロ、サプライヤ輸送分の推定トンキロ(※) (※積載量、積載率、輸送距離についてシナリオを設定し、購入重量に基づきトンキロを推計。購入重量が判らないものは、判明しているものの単位金額当たりの重量を利用し、購入金額より重量を推計。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CFP基本DB</li> </ul>
カテゴリ⑤「事業から出る廃棄物」	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物の種類別・処理方法別の重量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原単位DB*</li> </ul>
カテゴリ⑥「出張」	<ul style="list-style-type: none"> <li>出張・近隣移動の推定旅費(※)、近隣交通費支給額、宿泊日数 (※移動手段別に代表的経路をシナリオ設定し、利用回数から算出)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原単位DB*</li> </ul>
カテゴリ⑦「雇用者の通勤」	<ul style="list-style-type: none"> <li>通勤手段別の支給金額</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原単位DB*</li> </ul>
カテゴリ⑧「リース資産(上流)」	<ul style="list-style-type: none"> <li>建屋や機械のリース金額</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3EID</li> </ul>
カテゴリ⑨「輸送、配送(下流)」	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙製印刷物等6製品種別の推定輸送トンキロ(※)、販売容量、販売額 (※CFP制度のPCRに基づき、算定対象種類毎にシナリオを設定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CFP基本DB</li> </ul>
カテゴリ⑩「販売した製品の加工」	<ul style="list-style-type: none"> <li>販売した製品の加工なし、又は最終製品の構成割合が微小なため、算定せず。</li> </ul>	
カテゴリ⑪「販売した製品の使用」	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内におけるPET飲料の冷蔵の推定使用電力量(※PCRに基づき推定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CFP基本DB</li> </ul>
カテゴリ⑫「販売した製品の廃棄」	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙製印刷物等6製品種別の処理方法別廃棄物排出量(※PCRに基づき推定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CFP基本・利用可能DB</li> </ul>
カテゴリ⑬「リース資産(下流)」	<ul style="list-style-type: none"> <li>非該当</li> </ul>	
カテゴリ⑭「フランチャイズ」		
カテゴリ⑮「投資」		

\*「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量等算定のための排出原単位データベース」

## 算定結果

### ● 海外を含むDNPグループサプライチェーン全体のGHG排出量



※ 算定範囲は、国内拠点(北海道コカ・コーラプロダクツおよび書店グループは含みません)および海外主要サイト(PT DNP Indonesia、DNP IMS America Corporation、Tien Wah Press (Pte.) Ltd.)としました。